

# 地域包括ケアから地域共生社会へ —参加とつながりを手がかりに



堀田 聡子

慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 教授

生きづらさが身近なものとなり、年齢にかかわらず支援にかかわるニーズが広がりつつある。さらに人口減少の影響もあり、従来の社会保障のアプローチでは対応できない状況が生まれている。

こうしたなか、地域共生社会—制度・分野ごとの縦割りや「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人與人、人と資源が世代や領域を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会—の実現に向けた改革が急務となっている。

本講演では、地域包括ケアシステムの構築とそれをつうじた地域共生社会の実現をめぐる議論を概観したのち、特に「参加」と「つながり」を手がかりに各地で生えてきたいくつかの活動及び演者らが昨年からの取り組み始めた「認知症未来共創ハブ」の取り組み等を紹介し、一人ひとりにとってのチャレンジを考えてみたい。

2018 年度地域包括ケア研究会 報告書

[https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2019/04/koukai\\_190410\\_17.pdf](https://www.murc.jp/wp-content/uploads/2019/04/koukai_190410_17.pdf)

2018 年度地域共生社会研究会 報告書

<https://www.jages.net/project/kyosei/>

認知症施策関連ガイドライン（手引き等）、取組事例（社会参加の支援）

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000167700\\_00002.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000167700_00002.html)

認知症未来共創ハブ

<https://designing-for-dementia.jp/>

---

## 略歴 ● 堀田 聡子（ほった さとこ）

京都大学法学部卒業後、東京大学社会科学研究所特任准教授、ユトレヒト大学訪問教授等を経て慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科教授（医学部・ウェルビーイングリサーチセンター兼担、認知症未来共創ハブ代表）。博士（国際公共政策）。compassionate community, dementia friendly community等を手がかりに、より人間的で持続可能なケアと地域づくりに向けた移行の支援及び加速に取組み、社会保障審議会・介護給付費分科会及び福祉部会、政策評価審議会、地域包括ケア研究会、地域共生社会研究会等において委員を務める。日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー2015 リーダー部門入賞。